

## 農林水産省 フードテック研究会（第1回） 議事要旨

日時：令和2年4月17日（金）16時～18時

場所：ウェブ会議

出席者：食品企業、ベンチャー企業、研究機関、関係省庁等から約240名が参加（農林水産省を含む）。

農林水産省、シンクタンク、国立研究開発法人から、それぞれ(ア)研究会の目的、問題意識、(イ)タンパク質供給に関する新たなビジネスの情勢、(ウ)タンパク質供給に関する動向（倫理的・法的・社会的課題の検討状況）について説明後、参加者で意見交換を行った。

### 意見交換で出された主な意見

#### ○総論、ルール形成について

- ・SDGSはサーキュラーエコノミー（循環型経済）への一里塚。これらの考え方を今回対象とするフードテックの考え方にどう位置付けるか。
- ・日本は海洋国家であり、藻類もタンパク源として注目してはどうか。
- ・新規開発食品の規制について、欧州、豪州では事前審査の厳格化に流れが傾いている。世界的なルールメーカーの動きをとらえることが重要。
- ・日本はJASから始める風土が強いが、フードテックはグローバルを前提に世界標準、国際ルールから考える必要があるのではないか。

#### ○社会文化の形成について

- ・新しい技術は分かりにくいいため、技術の内容を知ってもらうことが必要。
- ・目指す普及率をどれくらいで想定するか。例えば、新規食品の例で、ミドリムシは、社会実装して15年経つが、いまだに一般の実装率は一桁代。
- ・出口として想定するビジネスモデルについて考えることが必要。ビジネスモデル次第では、既存の畜産業に付加価値つけることもできる。
- ・「食べてみたい」と「食べても良い」は違う。社会啓発上で大きな違い。

#### ○異業種連携・技術協力について

- ・民間の異業種連携も重要だが、省庁連携が特に必要な分野。
- ・バイオテクノロジーの活用次第では、食以外の出口も考える。

#### ○資金・人材供給について

- ・資金供給はコロナショックで激変。固定費抑えながら、早期に売上を伸ばす事業への投資が増えそう。
- ・他方で、時間はかかるけれども伸ばさないといけない分野もある。こうした分野は民間だけでは限界がある。
- ・研究開発型のスタートアップ、ベンチャーにとって、国の研究助成は重要。他方で、手続き面が重たい負担になっており、改善が必要。

以上